（別記）

# 令和８年度寒河江市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

## １　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、山形県のほぼ中央、村山盆地の西部に位置している。全耕地面積に占める水田の割合が約 60%であり、水稲・果樹栽培の組み合わせを基本としつつ、野菜や花き等を加えた複合経営が主な農業経営のスタイルとなっている。今後は、大豆等の土地利用型農業が効率よく実践されるようさらに団地化を推進するとともに生産性向上を図り、水田農業経営の振興を図っていく。

一方、担い手の高齢化が進行し、併せて農業者数の減少も続いており、不作付地の増加が懸念される。地域農業の維持発展のためには、担い手の確保と農地利用集積及び作業委託の推進による生産体制の強化が課題となっている。

## ２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市では、米の生産調整が開始された昭和 40 年代から、栽培に適した気候や土壌条件等により定着していたさくらんぼ等への転換が拡大し、水稲・果樹栽培を核とした農業経営が発展してきた。また、これに加えて、機械化が進んだ農業経営に対応しやすい作物として、団地化やブロックローテーションを主な手段として、えだまめや大豆の効率的な生産を地域全体で推進してきた。

今後もこのような農業経営・地域農業を基本としつつ、山形県農業再生協議会が示す「生産の目安」に当協議会としても協力し、高収益作物や転換作物の導入や付加価値の向上等による収益力強化を実現していく必要がある。

そこで、飼料用米については、多収品種の普及や地域内における畜産農家との連携を強化することで飼料用米需要拡大を目指し、低コスト生産技術の導入、普及及び収量の増加による生産量の増加を支援していく。

近年、需要が高まっている新市場開拓用米の取引量についても拡大を目指す。

## ３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

担い手の高齢化や農業者数の減少が加速している状況の中、効率的な農業経営が実現できるよう農地の集積・集約化を推進していく。担い手や労働力不足等の観点から、作業を機械化・効率化できる土地利用型作物（えだまめ、大豆等）をブロックローテーションにより作付し、連作障害を回避しながら水田としての活用期間を把握し、水稲作付に戻すための効率的な水田維持を基本とする。畑地化の意向がある場合には、積極的に畑地化促進事業を推進していく。

今後も、転作作物の作付面積増加に向け、圃場整備等を推進していく。

## ４　作物ごとの取組方針等

本市内約 1,720ha（出入作を考慮、不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

**（１）主食用米**

県が示す「生産の目安」の範囲内で、需要動向や集荷業者等の意向を踏まえて需要に応じた生産を行う。また、県の奨励品種「つや姫」や「雪若丸」のブランド産地としての評

価確立を目指し、安全かつ高品質・良食味な米生産を推進していく。

**（２）備蓄米**

主食用米からの転換が容易なことから、生産枠の確保を進め継続して取り組んでいく。

**（３）非主食用米**

令和７年度は「生産の目安」の増加により非主食用米の生産量は減少したが、今後も米消費量の減少が見込まれることから、主食用米の需要に影響を受けない取組を各種交付金の活用により推進。また、湿田等の条件不利農地のような大豆等の畑作物の作付けが困難な地域であっても、現有の機械・施設を活用した生産ができることから、実需者を確保しつつ作付面積の拡大を推進。

**ア　飼料用米**

実需者となる畜産農家との連携を強化し、生産量の拡大を図る。拡大に当たっては、低コスト生産の取組を推進し、経営の安定化及び収量向上に向けて、複数年契約及び多収品種の導入等を奨励するとともに、地域内での耕畜連携強化による所得増加の取組を推進する。

**イ　米粉用米**

地産地消による地元の実需者との結びつきを強化し、作付面積の拡大を図る。

**ウ　新市場開拓用米**

主食用米からの転換を推進し、所得向上への取組を支援するため、低コスト化や実需者との連携を深めることで需要拡大を推進し、作付面積の拡大を目指す。

**エ　WCS 用稲**

取組予定なし。

**オ　加工用米**

地産地消による地元の実需者との結びつきを強化するとともに、地力向上対策の実施、防除コストの低減等による生産性向上の取組を推進し、作付面積の拡大を図る。

**（４）麦、大豆、飼料作物**

大豆については、令和７年度は「生産の目安」の増加と畑地化促進事業の取り組みにより目標面積を下回ったが、転換作物の中で主軸となる品目と位置づけ、土壌改良剤による土づくりの実施や生産性の高い優良品種の作付けにより品質・収量の向上を図る。また、産地交付金の活用により団地化を推進するとともに、作業効率・収益性を確保するためブロックローテーションを継続して取り組み、生産性の向上と作付面積の維持･拡大を図る。なお、令和３年度に「麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト」を活用し、大豆に関する施設整備を実施したことを受け、さらなる品質向上と面積拡大を目指す。

飼料作物については、実需者である畜産農家とのマッチングを強化し、需給動向を踏まえながら生産の拡大を図る。

麦については取組予定なし。

**（５）そば、なたね**

そばについては、「生産の目安」の増加により作付けが減少しているが、大豆等の作付けが困難な中山間地域等の条件不利農地において、産地交付金を活用し生産振興を目指す。

なたねについては取組予定なし。

**（６）地力増進作物**　取組予定なし。

**（７）高収益作物**

水田をフル活用した園芸作物産地の育成のため、えだまめ、なす、ねぎ、アスパラガス、啓翁桜、未成熟とうもろこしを重点作物に位置づけ、従来から地域特産物として産地

化を推進してきた作物を地域振興作物とし、生産の拡大を図る。また、果樹、特に「紅秀峰（さくらんぼ)」の作付けを推進し、産地形成に努め複合経営の安定化を図る。

ア　えだまめ

適期作業の徹底や有機質肥料の施用などの取り組みによる高品質、安全安心、安定供給を柱とすることでブランド産地を形成し、団地化による作付面積の拡大を図る。

イ　なす

果樹と水稲の複合経営が多い当地域における夏季労働力を活用し、土壌改良による安定生産と作付面積の拡大により所得向上を図る。

ウ　ねぎ

輸入産品による価格低迷が続く中で、安全安心な国産品の販売面を強化して需要を確保し、団地化による作付面積の拡大を図る。

エ　アスパラガス

国産品が少ない冬期間において、促成栽培による生産を拡大、併せて団地化による作付面積の拡大を図る。

オ　啓翁桜

年末年始の需要時期に合わせ出荷を強化し、団地化による作付面積の拡大を図る。

カ　未成熟とうもろこし

未成熟とうもろこしは比較的管理に要する労力が少ないながらも販売期間が長く、産直施設での需要が高いため、作付けを実施する生産者が増加している傾向にある。

水田から転作する土壌においても栽培が可能で、作付け初年度から収穫が可能であるため、当市で実施するブロックローテーションにも適する作物であることから、未成熟とうもろこしを重点作物に位置付け、当品目の作付面積の拡大による農業経営安定化を図っていく。

## ５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

| 作物等 | 前年度作付面積等 | | 当年度の作付予定面積等 | | 令和８年度の作付目標面積等 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | うち二毛作 | | うち二毛作 | | うち二毛作 |
| 主食用米 | 1,021 | 0 | 992 | 0 | 988 | 0 |
| 備蓄米 | 0 | 0 | 24 | 0 | 14 | 0 |
| 飼料用米 | 10 | 0 | 23 | 0 | 23 | 0 |
| 米粉用米 | 7 | 0 | 13 | 0 | 16 | 0 |
| 新市場開拓用米 | 3 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 |
| WCS用稲 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 加工用米 | 16 | 0 | 9 | 0 | 12 | 0 |
| 麦 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大豆 | 106 | 0 | 109 | 0 | 110 | 0 |
| 飼料作物 | 3 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| ・子実用とうもろこし | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| そば | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| なたね | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 地力増進作物 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高収益作物 | 58 | 0 | 48 | 0 | 81 | 0 |
| ・野菜 | 50 | 0 | 45 | 0 | 71 | 0 |
| ・えだまめ | 33 | 0 | 32 | 0 | 35 | 0 |
| ・なす | 2 | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 |
| ・ねぎ | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| ・アスパラガス | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| ・未成熟とうもろこし | 1 | 0 | 1 | 0 | 5 | 0 |
| ・その他野菜 | 12 | 0 | 9 | 0 | 23 | 0 |
| ・花き・花木 | 2 | 0 | 1 | 0 | 5 | 0 |
| ・啓翁桜 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ・その他花き・花木 | 1 | 0 | 1 | 0 | 5 | 0 |
| ・果樹 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 |
| ・その他の高収益作物 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 畑地化 | 6 | 0 | 8 | 0 | 8 | 0 |

## ６ 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 | 前年度（実績）<br>（令和７年度） | 目標値<br>（令和８年度） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 大豆 | 大豆の団地化による高品質生産支援 | ・団地面積<br>・等級比率（２等以上） | 101.98ha<br>68.4% | 107ha<br>80.0% |
| 2 | えだまめ、なす、ねぎ、アスパラガス、啓翁桜、未成熟とうもろこし(基幹作物) | 重点作物助成 | 高収益重点作物の作付面積 | 39.06ha | 48.0ha |
| 3 | えだまめ、なす、ねぎ、アスパラガス、啓翁桜、未成熟とうもろこし（基幹作物） | 団地化加算助成（重点作物） | 団地面積<br>団地化割合 | 32.73ha<br>83.8% | 39.0ha<br>80.0% |
| 4 | ・野菜、花き・花木、果樹（具体的作物は別紙２「地域振興作物助成対象作物」のとおり）（基幹作物） | 地域振興作物助成 | 出荷・販売を目的とした地域振興作物の作付面積 | 17.61ha | 33.0ha |
| 5 | 地域振興作物 | 団地化加算助成（地域振興作物） | 団地面積<br>団地化割合 | 5.88ha<br>33.4% | 13.0ha<br>40.0% |
| 6 | 飼料用米の生産ほ場の稲わら | 耕畜連携助成（稲わら利用） | 耕畜連携の取組面積<br>飼料用米作付面積に対する耕畜連携取組面積の割合 | 0ha<br>0% | 1.1 ha<br>2.4% |
| 7 | そば | 【国枠】そば生産助成 | そば作付面積 | 0ha | 1.9ha |
| 8 | 新市場開拓用米 | 【国枠】新市場開拓用米生産助成 | 新市場開拓用米作付面積 | 2.79ha | 2.5ha |

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

## 7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：山形県

協議会名：寒河江市農業再生協議会

| 整理番号 | 使途<br>※1 | 作期等<br>※2 | 単価<br>（円/10a） | 対象作物<br>※3 | 取組要件等<br>※4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 大豆の団地化による高品質生産支援 | 1 | 5,000 | 大豆 | 90a以上の連坦団地を構成し、指定された品質向上対策を実施すること |
| 2 | 重点作物助成 | 1 | 12,000 | えだまめ、なす、ねぎ、アスパラガス、啓翁桜、未成熟とうもろこし（基幹作物） | 出荷・販売を実施した対象作物の作付面積に応じて支援 |
| 3 | 団地化加算助成（重点作物） | 1 | 21,000 | えだまめ、なす、ねぎ、アスパラガス、啓翁桜、未成熟とうもろこし（（基幹作物） | 90a以上の連坦団地を構成し、指定された排水性向上対策を実施すること |
| 4 | 地域振興作物助成 | 1 | 野菜など7000<br>果樹13,000 | ・野菜、花き・花木、果樹<br>（別紙2「地域振興作物助成対象作物」のとおり）（基幹作物） | 出荷・販売を実施した対象作物の作付面積に応じて支援 |
| 5 | 団地化加算助成（地域振興作物） | 1 | 7,000 | 地域振興作物 | 90a以上の連坦団地を構成していること |
| 6 | 耕畜連携助成（稲わら利用） | 3 | 14,000 | 飼料用米の生産ほ場の稲わら | 飼料用米を作付けする水田において発生した稲わらを飼料として活用すること |
| 7 | 【国枠】そば生産助成 | 1 | 20,000 | そば | 出荷・販売を実施した対象作物の作付面積に応じて支援 |
| 8 | 【国枠】新市場開拓用米生産助成 | 1 | 20,000 | 新市場開拓用米 | 需要者との契約に基づき生産すること |

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

（別紙）

# 地域振興作物助成対象作物

| 区分 | 対象作物 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 野菜 | わさび | カリフラワー | いちご | さつまいも |
| | きゅうり | にら | セルリー | うこぎ |
| | だいこん | レタス | スティックセニョール | オクラ |
| | たまねぎ | 五月菜 | 大根葉 | かぶ |
| | たらの芽 | ズッキーニ | 春菊 | かぼちゃ |
| | つるむらさき | ふきのとう | キャベツ | トマト |
| | 白菜 | チンゲン菜 | 行者にんにく | にんじん |
| | フキ | アスパラ菜 | さといも | パプリカ |
| | シソ | くきたち菜 | さやいんげん | じゃがいも |
| | ごぼう | さやえんどう | ピーマン | うど |
| | ユウガオ | ししとう | ブロッコリー | こごみ |
| | ゴーヤ | 食用菊 | ほうれんそう | うるい |
| | 菊芋 | 生姜 | みず菜 | わらび |
| | にんにく | すいか | みょうが | こまつ菜 |
| | いんげん | せいさい | メロン | ぜんまい |
| | スナップエンドウ | わさび菜 | 唐辛子 | ささぎ |
| | ネマガリタケ | つぼみ菜 | モロヘイヤ | ケール |
| | あさつき | せり | おかひじき | |
| 果樹 | キウイフルーツ | かき | 西洋なし | ラズベリー |
| | ナッツ | くり | 日本なし | りんご |
| | あけび | さくらんぼ | ブルーベリー | ぶどう |
| | いちじく | かりん | プルーン | アーモンド |
| | うめ | すもも | もも | 銀杏 |
| | レモン | | | |
| 花き・花木 | アスター | 宿根アスター | ばら | スノーボール |
| | アネモネ | 宿根かすみそう | ひまわり | ビブルナム |
| | アルストロメリア | スターチス | ブプレウラム | スプレーマム |
| | きく | ストック | フリージア | エレムルス |
| | ダリア | レンギョウ | コスモス | べにばな |
| | ワレモコウ | トルコぎきょう | ゆり | ベゴニア |
| | りんどう | ソリダコ | ツノナス | 葉ボタン |
| | ギガンジューム | ボケ | ライラック | ユーカリ |
| | あじさい | クリスマスローズ | ギガンジューム | ボケ |
| | | | | |
| その他作物 | 交付対象作物の種苗類 | 野菜、花き、花木 | | |